

消防団員公務災害防止研修の ごあんない

消防団員等公務災害補償等共済基金は、消防団員の公務災害防止のための研修の助成・後援を行っています。



講師謝金、講師旅費、会場借上料、参加者の弁当代などの開催経費は、助成対象となります。



講師のあっせんやテキストなどの提供は、基金が行います。平日はもちろん、土曜・日曜・祝日の開催にも対応します。



消防団員の“ゼロ災害”実現のために、4コース御用意していますので、奮って御利用ください。

● 消防団員の安全を担う人たちのための基礎講座 ●

消防団員安全管理セミナー

90分コース

……P. 4

受講対象者 消防団員、消防団事務担当者

● 体験訓練とリーダーの養成 ●

S-KYT(消防団危険予知訓練)研修

4時間コース・3時間コース・2時間コース ……P. 6

受講対象者 消防団員、消防団事務担当者

● 事故防止を健康面からアプローチする ●

消防団員健康づくりセミナー

1.5～3時間コース

……P. 10

受講対象者 消防団員、消防団事務担当者

● 怪我の応急手当や災害時のストレス対応の知識・技能を学ぶ ●

消防団員セーフティ・ファーストエイド研修

1.5時間コース・3時間コース

……P. 12

受講対象者 消防団員、消防団事務担当者

(消防基金)

消防団員の事故は いつでも

1 公務による負傷者等の人数の推移

消防団活動に従事したことにより公務による負傷等を受けた全国の消防団員は、最近10年間の平均で900人以上になっています（図1）。

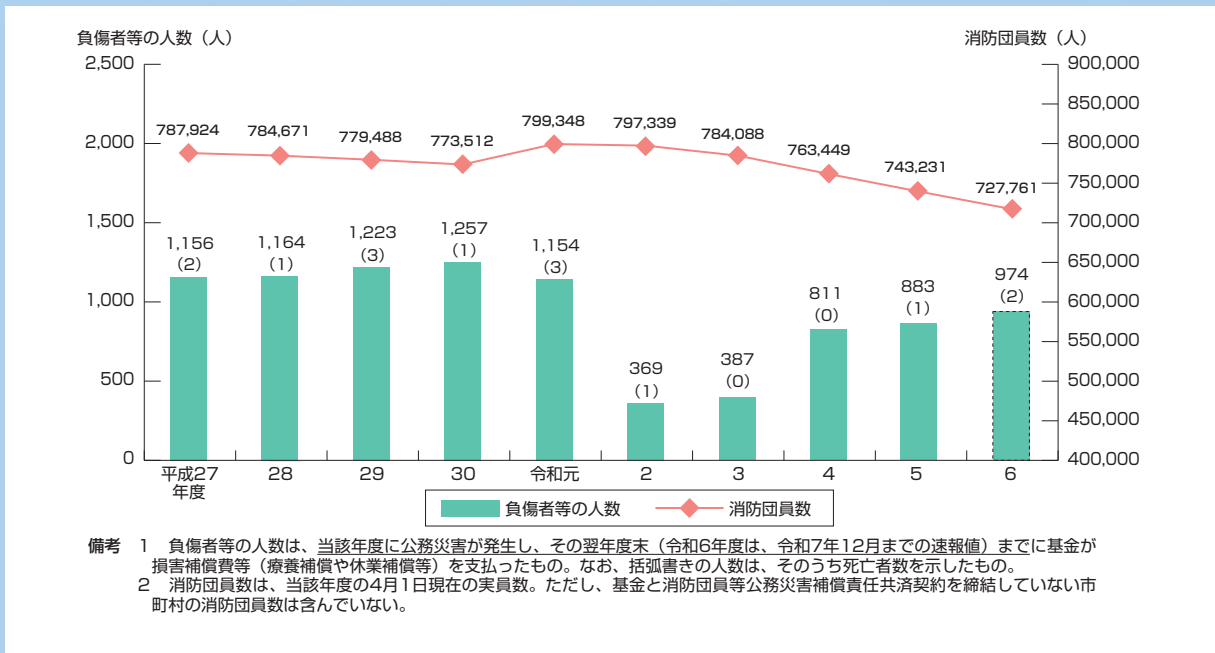


図1 公務による負傷者等の人数の推移

2 活動態様別公務災害発生状況

令和5年度の公務災害の発生状況を活動態様別に見ると、「演習訓練」（68.5%）が最も多く、次いで「消火活動」（15.9%）となっており、これらで全体の8割以上を占めます（図2）。

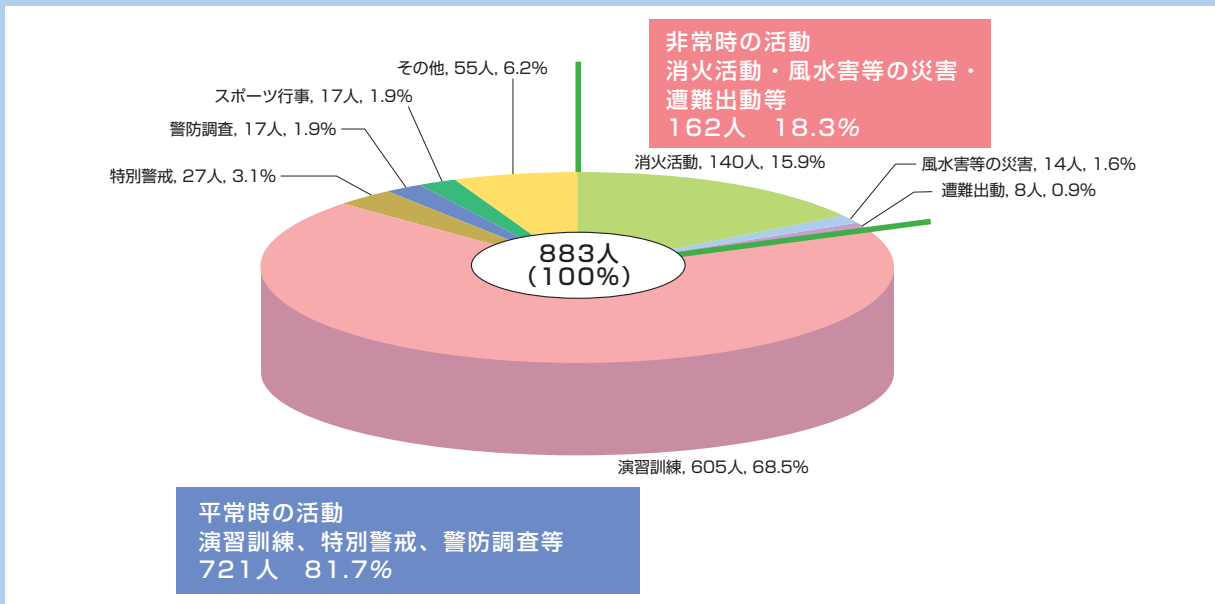


図2 活動態様別公務災害発生状況（令和5年度）

どこでも起こり得る

3 演習訓練中の公務災害発生内訳

令和5年度の公務災害の発生状況を活動態様別に見ると、演習訓練時の公務災害は6割を超えており(図2)、うちポンプ操法の動作による負傷は約6割です(図3)。

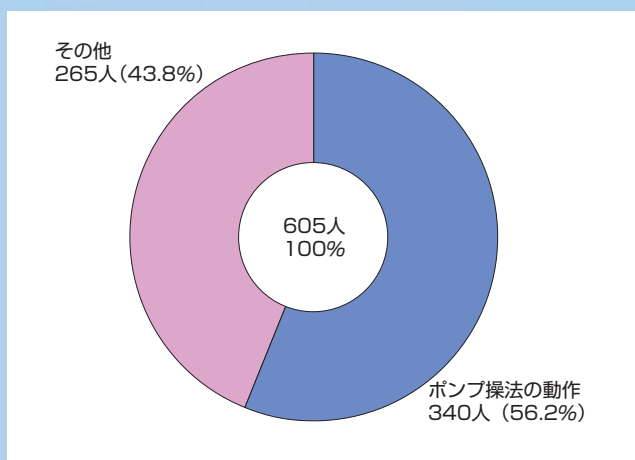


図3 演習訓練中の公務災害発生内訳(令和5年度)

4 活動態様別・死亡原因別公務災害発生状況

最近5か年間に公務災害により死亡した消防団員は5人を数えます。

(単位:人)

活動の態様 死亡原因	消火活動	風水害等の 災害	演習訓練	往復経路	その他	合計
循環器系疾患 (脳血管疾患・ 虚血性心疾患)	1					1
圧死・水死		1			1	2
交通事故			1	1		2
その他						0
合計	1	1	1	1	1	5

表 殉職した消防団員の活動態様別・死亡原因別の公務災害発生状況(令和元~令和5年度)

備考 死亡者数は、令和元年度から令和5年度までに公務災害により死亡した事案です(令和7年3月末までに支払ったもの)。

消防団員安全管理セミナー

多発する消防団員の公務災害。地域防災を担う消防団員の安全と健康を守ることは、市町村の大きな責務です。これからの消防団員の安全確保、健康増進を、どう推進すればよいのか。安全と健康を担う立場にあるかたがたを対象にしたセミナーです。

基金は、30万円（参加予定者が100人未満の場合には20万円）の範囲内（講師旅費別途）で、開催に要する費用のうち、4の予定表に掲げるものの合計額を助成します。

1 実施主体

次に掲げる市町村等（消防本部、消防署、消防団又は消防学校を含む。以下同じ。）とする。

- | | | |
|----------|----------|--------------------|
| ア 市町村 | イ 一部事務組合 | ウ 広域連合 |
| エ 水害予防組合 | オ 都道府県 | カ 都道府県消防協会（支部を含む。） |

2 対象者

- ア 契約締結市町村等の消防団員
- イ 市町村等の消防団事務担当者

3 研修内容

消防団活動時における安全確保及び消防団員の健康増進等

講師は、S-KYT指導員などを基金があっせんします。

（テキストより）

第1章 消防団員の事故はいつでもどこでも起こり得る

- 1 公務による負傷者等の人数の推移
- 2 活動態様別公務災害発生状況
- 3 ポンプ操法訓練に多発する下肢のケガ
- 4 活動別・死亡原因別公務災害発生状況
- 5 最近の公務災害事例
- 6 東日本大震災に係る消防団員の活動状況

第4章 事故の予防策

- 1 健康な体を作る
- 2 教育・訓練を充実強化する
- 3 機械・器具を整備する
- 4 指揮命令を徹底する
- 5 安全の雰囲気を作る

第2章 “墓標安全” から “予防安全” へ

- 1 消防団員を守ることは郷土を守ること
- 2 “墓標安全” から “予防安全” へ

第5章 事故発生後の対応策

- 1 事故の被害を局限に抑える
- 2 教訓を次に生かす
- 3 被災団員、遺族に誠意を持って当たる

第3章 事故発生メカニズムを知る

- 1 ハインリッヒの法則
- 2 消防団の5Mとは
- 3 5Mの防護壁を万全に整える

項目	内容
所要時間	1.5時間程度
講師の人数	原則として1人
参加人数	原則として50人以上

4 助成対象経費

経費の種類	助成額（消費税を含む。）の基準
講師謝金（所得税を含む。）	土・日・祝日に実施 1人につき 20,000円
	上記以外の日に実施 1人につき 15,000円
講師旅費	基金の規程に準じた額
会場借上料・機材使用料	実費
食事代・飲料（茶）代	1人につき1,200円を限度とした実費
諸雑費	実費
連絡調整費 （都道府県等職員の交通費・宿泊料）	原則として、50,000円を限度とした実費 （離島での開催など特段の事情が認められる場合は実費）

なお、講師旅費は助成限度額に含みません。



（長島町消防団）

安全管理セミナー テキスト

消防団員の事故防止のために

消防団員等公務災害補償等共済基金

S-KYT (消防団危険予知訓練) 研修

消防活動の現場には、目に見える危険だけではなく、多種多様の危険が潜んでいます。S-KYT (消防団危険予知訓練) は、消防団員一人一人の危険に対する予知能力を高め、事故を防止するための訓練です。

S-KYT研修では、初めて経験するリーダー団員を対象に、実技を通して訓練手法を体験します。消防団向けにコンパクトにまとめたカリキュラムにより、危険予知の手法が短時間で習得できます。



◆ S-KYT研修 (4時間コース) カリキュラム (例)

時間	分	項目	訓練内容	担当
13:00~13:05	5	開会	主催者挨拶・講師紹介	事務局
13:05~13:15	10	チーム編成	各チーム単位自己紹介・1分	S-KYT指導員
13:15~13:40	25	講義	安全とは… [S-KYTの概要と狙い]	S-KYT指導員
13:40~13:55	15	DVD上映1	DVD「消防団員安全教育 (S-KYT編)」の上映1 (①オープニング~⑤ S-KYT全体の流れまでを上映)	S-KYT指導員 (事務局は機器操作)
13:55~14:15	20	実技1	正しく確認する方法 指差し呼称・指差し唱和・タッチ&コール 説明12分、実技8分 (チーム単位)	S-KYT指導員
14:15~14:25	10	休憩		
14:25~14:45	20	実技2	健康KY 健康自己チェック、健康問いかけKY	S-KYT指導員
14:45~15:05	20	DVD上映2	DVD「消防団員安全教育 (S-KYT編)」の上映 (⑥導入~⑩エンディングを上映)	S-KYT指導員 (事務局は機器操作)
15:05~15:30	25	実技3	危険要因の捉え方と表現の仕方 説明10分、実技12分、解説3分	S-KYT指導員
15:30~15:40	10	休憩		
15:40~16:50	70	実技4	S-KYT4ラウンド法 説明10分、実技45分・発表15分	S-KYT指導員
16:50~17:00	10	Q&A まとめ	質疑応答・アンケート記入、指差し呼称	S-KYT指導員
		閉会	閉会挨拶	事務局

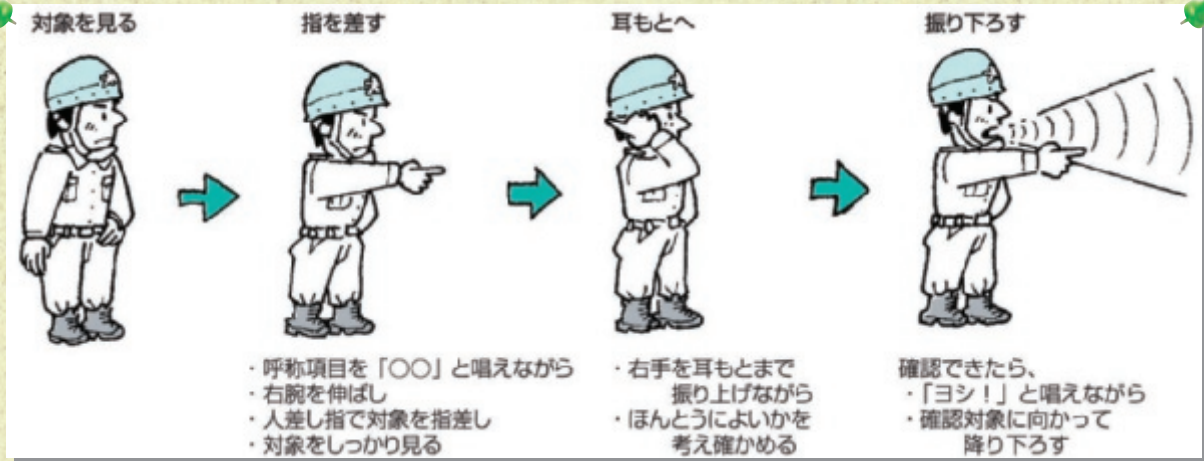
◆ 確実に学べる安全活動のさまざまな手法

S-KYT研修では、消防団員の安全活動のためのさまざまな手法を学びます。初めて経験するリーダー団員でも日常の現場でみずから訓練進行ができるように、S-KYT指導員がわかりやすく丁寧に指導します。

1 指差し呼称と指差し唱和、タッチ・アンド・コール

一人一人が消防活動を安全に行うために、活動の要所要所で行う「確認行動」の仕方を習得します。災害現場で沉着冷静な対応を求められる消防団員には、特に有効な安全行動の一つです。

指差し呼称



指差し呼称の基本形

指差し唱和／タッチ・アンド・コール

チーム全員で気合いを入れ、メンバーの“うっかり”、“ぼんやり”を防ぐための技法です。リーダーにリーダーらしさが備わり、チームとしての一体感・連帯感が高まります。



(三沢市消防団)



(春日井市消防団)

2 健康KY

消防活動による脳血管疾患や心臓疾患の発病は、防がなければなりません。健康KYでは、リーダー団員が消防団活動の前にメンバー一人一人の健康状態を的確に把握する重要性を理解していただきます。

3 S-KYT4ラウンド法

S-KYTは、少人数のチームがイラスト・シートを用いて、活動現場に潜むさまざまな危険を見抜くシミュレーション訓練です。参加者からは「一体感が生まれた」などの感想をいただいています。

メンバーが自由に、活発に「危険」を出し合うほど、訓練効果は高まります。研修会では、リーダー団員が各分団で危険予知訓練を推進する役割を担い、部下団員とともに実践するためのノウハウを体験学習します。



リーダーはメンバー一人一人の健康状況を観察し、具体的に問いかける（古賀市消防団）

▼イラストの場面に潜む危険をみんなで出し合う（徳島市消防団）



▲イラスト・シート(どんな危険が潜んでいるか)



▲グループ発表（東広島市消防団）

基金は、40万円の範囲内（講師旅費別途）で、開催に要する費用のうち、4の表に掲げるものの合計額を助成します。

1 実施主体

次に掲げる市町村等（消防本部、消防署、消防団又は消防学校を含む。以下同じ。）とする。

- | | | |
|----------|----------|--------------------|
| ア 市町村 | イ 一部事務組合 | ウ 広域連合 |
| エ 水害予防組合 | オ 都道府県 | カ 都道府県消防協会（支部を含む。） |

2 対象者

- ア 契約締結市町村等の消防団員
- イ 市町村等の消防団事務担当者

3 研修内容

S-KYT研修については、原則、4時間コースの受講を推奨します。

御要望に応じて、4時間コースをコンパクトにした3時間コースの受講についても対応いたします。

なお、2時間コースについては、原則、市町村の消防団事務担当者等の体験版として提供しています。

項 目	内 容
所要時間	4時間、3時間又は2時間
講師の人数	2人以上
参加消防団員の人数	原則として30人以上

4 助成対象経費

助成の対象となる経費と助成額は、次のとおりです。

経費の種類	助成額（消費税を含む。）の基準
講師謝金（所得税を含む。）	土・日・祝日に実施 1人につき 40,000円
	上記以外の日に実施 1人につき 32,000円
講師旅費	基金の規程に準じた額
会場借上料・機材使用料	実費
食事代・飲料（茶）代	1人につき1,200円を限度とした実費
諸雑費	実費
連絡調整費 （都道府県等職員の交通費・宿泊料）	原則として、50,000円を限度とした実費 （離島での開催など特段の事情が認められる場合は実費）

なお、講師旅費は助成限度額に含みません。

消防団員健康づくりセミナー

消防団活動中の脳血管疾患や心臓疾患の発病が後を絶ちません。

これらのかたは、いわゆる生活習慣病などの健康上の問題を抱えていたことが指摘されています。

このセミナーは、公務災害の防止策を健康面からアプローチする研修会です。団員一人一人の健康に対する意識を高め、健康増進に役立つ知識や運動実技の方法を効果的に学習します。

基金は、3のA～Cについて、次表の範囲内で開催に要する費用のうち、4の表に掲げるものの合計額を助成します。

A又はB	30万円（参加予定者が100人未満の場合は20万円）の範囲内（講師旅費別途）
C	40万円（参加予定者が100人未満の場合は30万円）の範囲内（講師旅費別途）

1 実施主体

次に掲げる市町村等（消防本部、消防署、消防団又は消防学校を含む。以下同じ。）とする。

- ア 市町村 イ 一部事務組合 ウ 広域連合
エ 水害予防組合 オ 都道府県 カ 都道府県消防協会（支部を含む。）

2 対象者

- ア 契約締結市町村等の消防団員
イ 市町村等の消防団事務担当者

3 研修内容

次のA～Cのいずれかを選択してください。

A 健康増進教育

- 生活習慣病の防止に係る座学講習
- 講師は、日本赤十字社各都道府県支部が派遣する者

項目	人員等
所要時間	1.5時間程度
講師の人数	日本赤十字社各都道府県支部が派遣する人数
参加消防団員の人数	原則として50人以上

B 運動実技の習得

- 健康・体力づくりのための運動実技の講義及び実技の指導
- 講師は、NPO法人日本健康運動指導士会が推薦する健康運動指導士

項目	人員等
所要時間	1.5時間程度
講師の人数	参加者40人につき、原則として1人（注）
参加消防団員の人数	原則として40人から80人程度（注）

（注）講義中心である場合は、講師1人での対応も可能です。



塩釜市消防団



三方消防団



鹿児島県消防協会川辺支部



東広島市消防団

C A及びBの同日開催

項目	人員等
所要時間	2～3時間程度
講師の人数	日本赤十字社各都道府県支部が派遣する人数及び参加人数に応じた健康運動指導士の数
参加消防団員の人数	原則として50人以上

4 助成対象経費

経費の種類	研修コース	助成額（消費税を含む。）の基準
講師謝金（所得税を含む。）	A	日本赤十字社各都道府県支部が定める額
	B	主任 30,000円、副主任 20,000円
	C	Aコース及びBコースの合計額
講師旅費	A	日本赤十字社各都道府県支部が定める額
	B	市町村等が定める額
	C	Aコース及びBコースの合計額
教材費、講習負担金		実費
会場借上料・機材使用料		実費
食事代・飲料（茶）代		1人につき1,200円を限度とした実費
諸雑費		実費
連絡調整費（都道府県等職員の交通費・宿泊料）		原則として、50,000円を限度とした実費 （離島での開催など特段の事情が認められる場合は実費）

なお、講師旅費（A：日本赤十字社各都道府県支部が定める額、B：開催申込団体が定める額、C：A及びBの合計額）は助成限度額に含みません。

消防団員セーフティ・ファースト

負傷した消防団員等の応急処置を行う際、自身の安全を確保した上で、適切に対応できる能力を育成するとともに、災害救援活動中の消防団員が災害現場で凄惨な場面に遭遇した際の惨事ストレスについての知識と対応の啓発普及を図るため、ファーストエイド（外科的応急処置）、PFA（心理的応急処置）等の基礎知識とその実技を学ぶ研修です。

基金は、Aコースを選択した場合は40万円、Bコースを選択した場合は30万円（参加予定者が100人未満の場合には20万円）の範囲内（講師旅費別途）で、開催に要する費用のうち、4の表に掲げるものの合計額を助成します。

1 実施主体

次に掲げる市町村等（消防本部、消防署、消防団又は消防学校を含む。以下同じ。）とする。

- | | | |
|----------|----------|--------------------|
| ア 市町村 | イ 一部事務組合 | ウ 広域連合 |
| エ 水害予防組合 | オ 都道府県 | カ 都道府県消防協会（支部を含む。） |

2 対象者

- ア 契約締結市町村等の消防団員
- イ 市町村等の消防団事務担当者

3 研修内容

Aコース（S-FA研修（実技+座学））

ファーストエイド（外科的応急処置）及びPFA（心理的応急処置）の基礎知識とその実技

Bコース（災害救援ストレス対策研修（座学））

PFA（心理的応急処置）等の基礎知識とその実技

◆ S-FA研修（Aコース）カリキュラム（例）

時間	実施項目	細部実施項目	形式
60分	受付・打合せ等	会場準備、講師打合せ、受付	—
10分	開会式	開会挨拶	—
		講師紹介	
30分	災害医療概論	セーフティ・ファーストエイド紹介スライド	スライド
		災害及び訓練における消防団員の負傷等の現状	講義
		災害現場における救急処置の基本的事項	
5分	移動・休憩	レイアウト変更等	—
60分	災害時における 応急手当	実習予定の一連の行動（悪い例、良い例）	展示
		状況評価、初期評価及び救急隊への申し送り等	実習
		圧迫止血及び穿通性異物の固定 （エマージェンシー・バンテージの使用方法）	実習
		総合訓練	実習
5分	移動・休憩	レイアウト変更等	—
60分	災害時における メンタルヘルスケア	人道支援	講義
		災害時のメンタルヘルス	講義
		PFA（心理的応急処置）	ロールプレイ
10分	閉会式	閉会の挨拶及び講評	—
		セーフティ・ファーストエイドキット贈呈	—

トエイド研修

A コース (S-FA研修 (実技+座学))

ファーストエイド (外科的応急処置) 及び PFA (心理的応急処置) の基礎知識とその実技

(講師)

ファーストエイド (外科的応急処置) の講師については、消防団員セーフティ・ファーストエイド研修指導員、PFA (心理的応急処置) の講師については、PFA指導者 (国際 NGOセーブ・ザ・チルドレンと DPAT事務局 (厚生労働省委託事業) が共催する PFA指導者育成研修を受講し「PFA指導者名簿」に登録された者をいう。以下同じ。)

(講師補助者)

怪我等の応急手当の実技研修を補助するため、受講者6人当たり1人程度の救急救命士を講師補助者として置くものとします。

講師補助者は、原則として実施主体に選定、依頼等を行っていただきますが、人数が不足する場合は、DMAT 隊員を基金からあつ旋するよう努めます。

項目	人員等
所要時間	3 時間程度
講師の人数	3 人程度
参加消防団員の人数	原則として 36 人程度
講師補助者 (開催地の都道府県等の DMAT 隊員及び救急救命士) の人数	5 人程度※

※講師の担当人数 (6人) を除いて計算しています。

B コース (災害救援ストレス対策研修 (座学))

PFA (心理的応急処置) 等の基礎知識とその実技

(講師)

PFA指導者又は消防庁緊急時メンタルサポートチームに登録されている者

項目	人員等
所要時間	1.5 時間程度
講師の人数	1 人
参加消防団員の人数	原則として 50 人以上

4 助成対象経費

経費の種類	研修コース	助成額（消費税を含む。）の基準
講師謝金（所得税を含む。）	A	土・日・祝日に実施 1人につき 講師 40,000円、講師補助者 20,000円
		上記以外の日を実施 1人につき 講師 32,000円、講師補助者 15,000円
	B	土・日・祝日に実施 20,000円
		上記以外の日を実施 15,000円
講師旅費		基金の規程に準じた額
会場借上料・機材使用料		実費
食事代・飲料（茶）代		1人につき1,200円を限度とした実費
諸雑費		実費
連絡調整費（都道府県等職員の交通費・宿泊料）		原則として、50,000円を限度とした実費 （離島での開催など特段の事情が認められる場合は実費）

※なお、講師旅費は助成限度額に含みません。

A コース（S-FA研修）



エマージェンシー・バンテージによる圧迫止血の様子



消防団員による実践演習の様子



被災者に対する傾聴のロールプレイ



血液曝露防止のための手袋の外し方

B コース（災害救援ストレス対策研修）



講義の様子



消防団員等公務災害補償等共済基金

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目9-16 日本消防会館9階

TEL.03-5422-1710(代) FAX.03-5422-1745

<https://www.syouboukikin.jp>

担当 企画課 TEL 03-5422-1715

E-mail kikaku@syouboukikin.jp